４．恋愛・性の健康

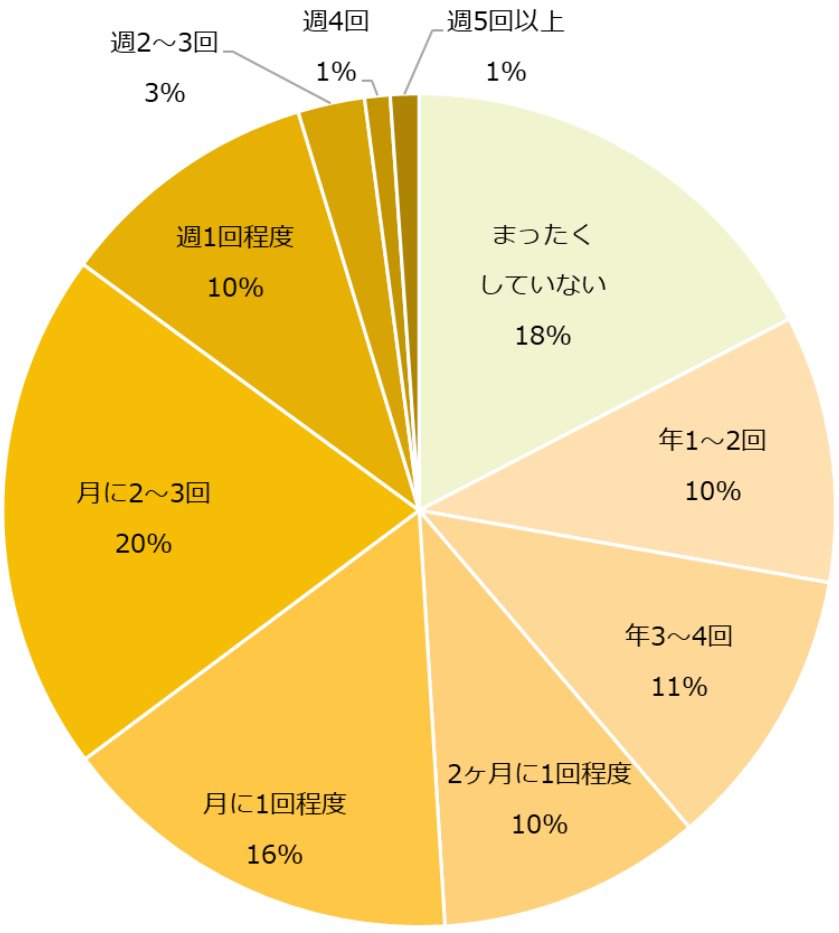
■性生活について

有効回答者 810 人のうち、特定の付き合っている人・配偶者や恋人がいると回答した人は、369 人（全体の 45.6%）でした。このうち、法的に結婚している人は 61 人（16.5%）、事実婚であると回答した人は 112 人（30.4%）でした。

また、これまで同性とセックスしたことがある人は 770 人（95.1%）であり、その割合を性別で見ると、男性では 97.5%、女性では 42.4%でした。なお、分析にはトランスジェンダー12 人（1.5%）が含まれます。

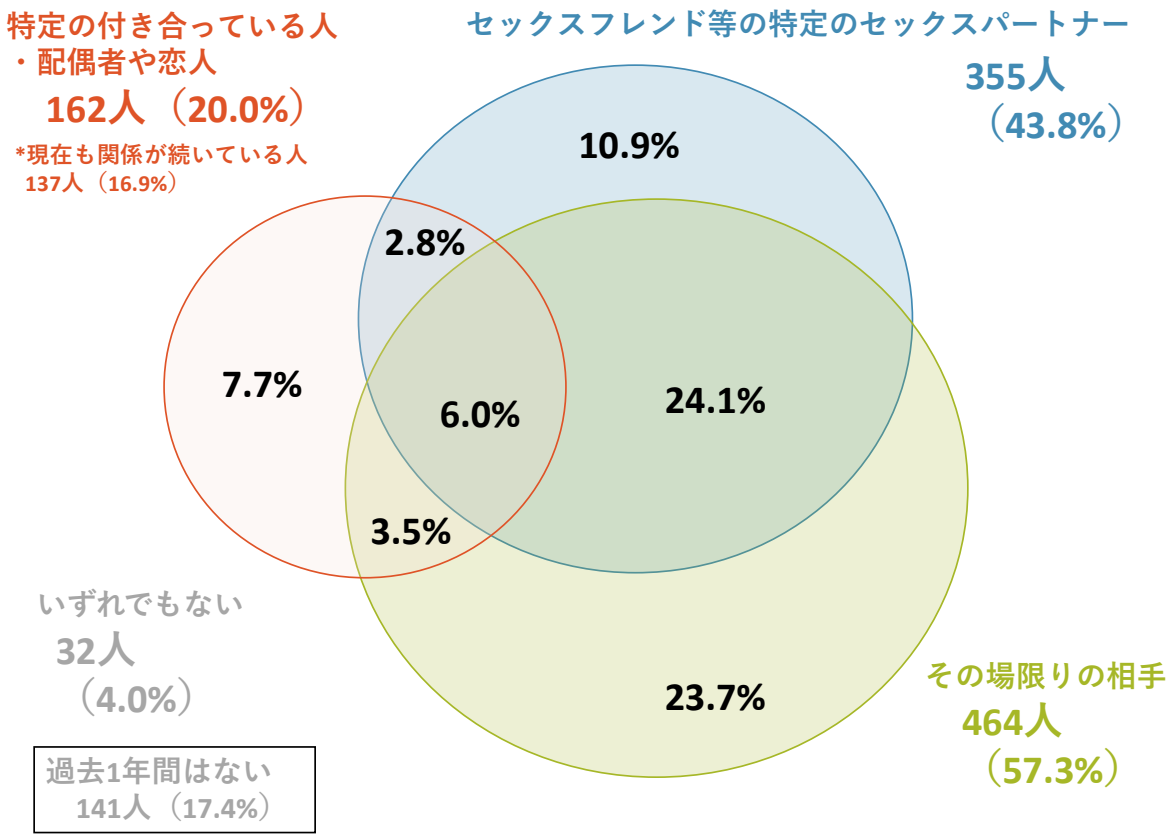
この 1 年間のセックスの頻度は、「月に 2～3 回」が 164 人（20.2%）ともっとも多く、次いで「月に 1 回程度」が 128 人（15.8%）で、前回とほぼ同様でした。一方でこの 1 年間にセックスしたことがない人は 141 人（17.4%）でした（図 4-1）。また現在、「特定の付き合っている人・配偶者や恋人」がいると回答した人のうち、この 1 年間にその人とのセックスはしていないと回答した人は 232 人（62.9%）でした。

図 4-1　この 1 年間のセックスの頻度（N=810）



セックスの相手との関係性では「特定の付き合っている人・配偶者や恋人」が 162 人（20.0%)、「セックスフレンド等の特定のセックスパートナー」が 355 人（43.8%)、「その場限りの相手」が 464 人（57.3%）でした。これらの重なりを分析したものを図 4-2 に示します。また、金銭の授受を伴うセックス経験は全体で 85 人（10.5%）であり、相手に払った人が 71 人（8.8%)、受け取った人が 22 人（2.7%）でした。なお、相手別の人数からは、この 1 年間にセックスを「まったくしていない」と回答した人を除外しています。

図 4-2　この 1 年間のセックスの相手（N=810）

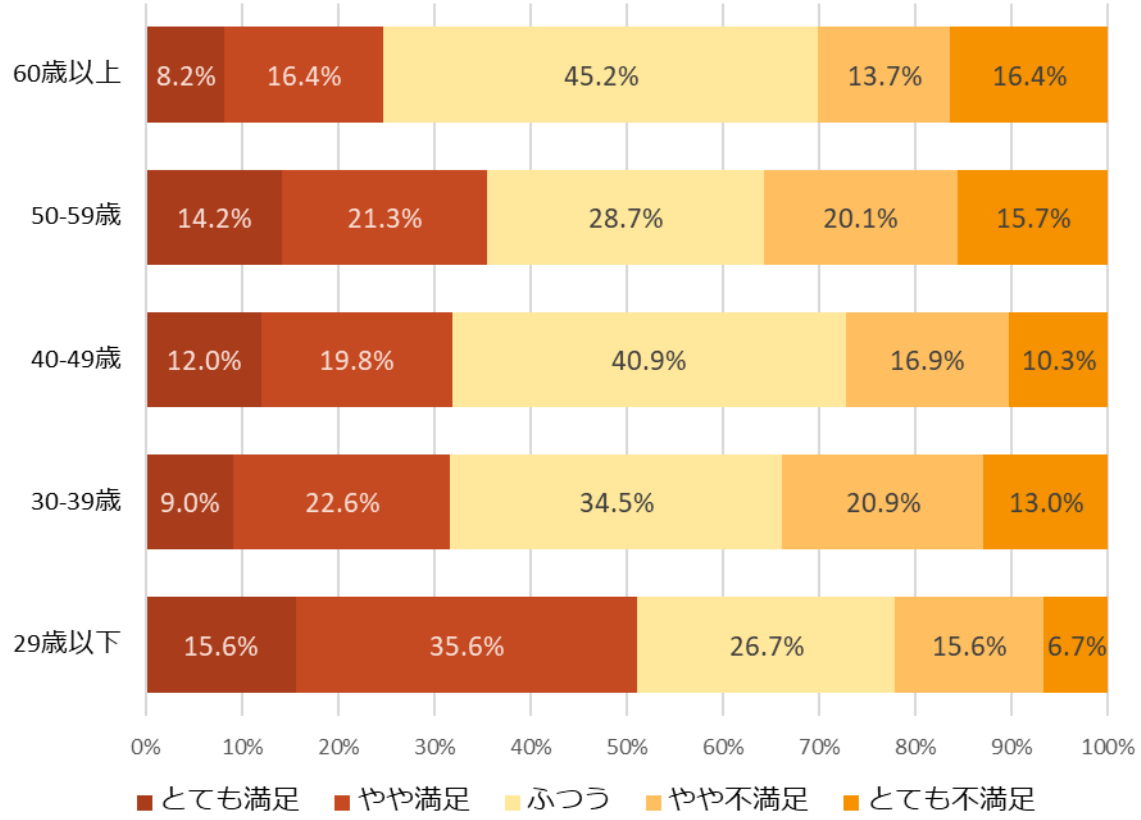


この一年間の性生活について、とても満足 96 人（11.9%)、やや満足 173 人（21.4%)、ふつう 283 人（34.9%)、やや不満足 149 人（18.4%)、とても不満足 105 人（13.0%）でした。

無回答であった人を除き、年齢別に分析してみると「とても満足・やや満足」の割合は、20 歳代で 51.1%、30 歳代 31.6%、40 歳代 31.8%、50 歳代 35.4%、60 歳以上 24.7%でした（図 4-3)。

セックスの相手別にうかがったところ、「おおいに／まあ満足している」人の割合は「特定の付き合っている人・配偶者や恋人」では 53.9%、「セックスフレンド等の特定のセックスパートナー」では 80.8%、「その場限りの相手」では 63.8%でした。なお、「配偶者・恋人・特定のパートナー」の場合には、この 1 年間にセックスをしていない人も含まれています。

図 4-3　この 1 年間の性生活満足度（年齢別 N=805）



■恋愛に関する経験

これまでに「付き合いそうになった相手や、結婚したいと思っていた相手に、あなた自身が HIV 陽性であることを伝えたら、うまくいかなかったことがある」と回答した人は 153 人（18.9%）、「特定の付き合っている人・配偶者に、あなた自身が HIV 陽性であることを伝えたら、別れることになったことがある」と回答した人は 96 人（11.9%）でした。第 3 回の調査結果と比べやや低い割合でした。

■特定の付き合っている人・配偶者や恋人との関係

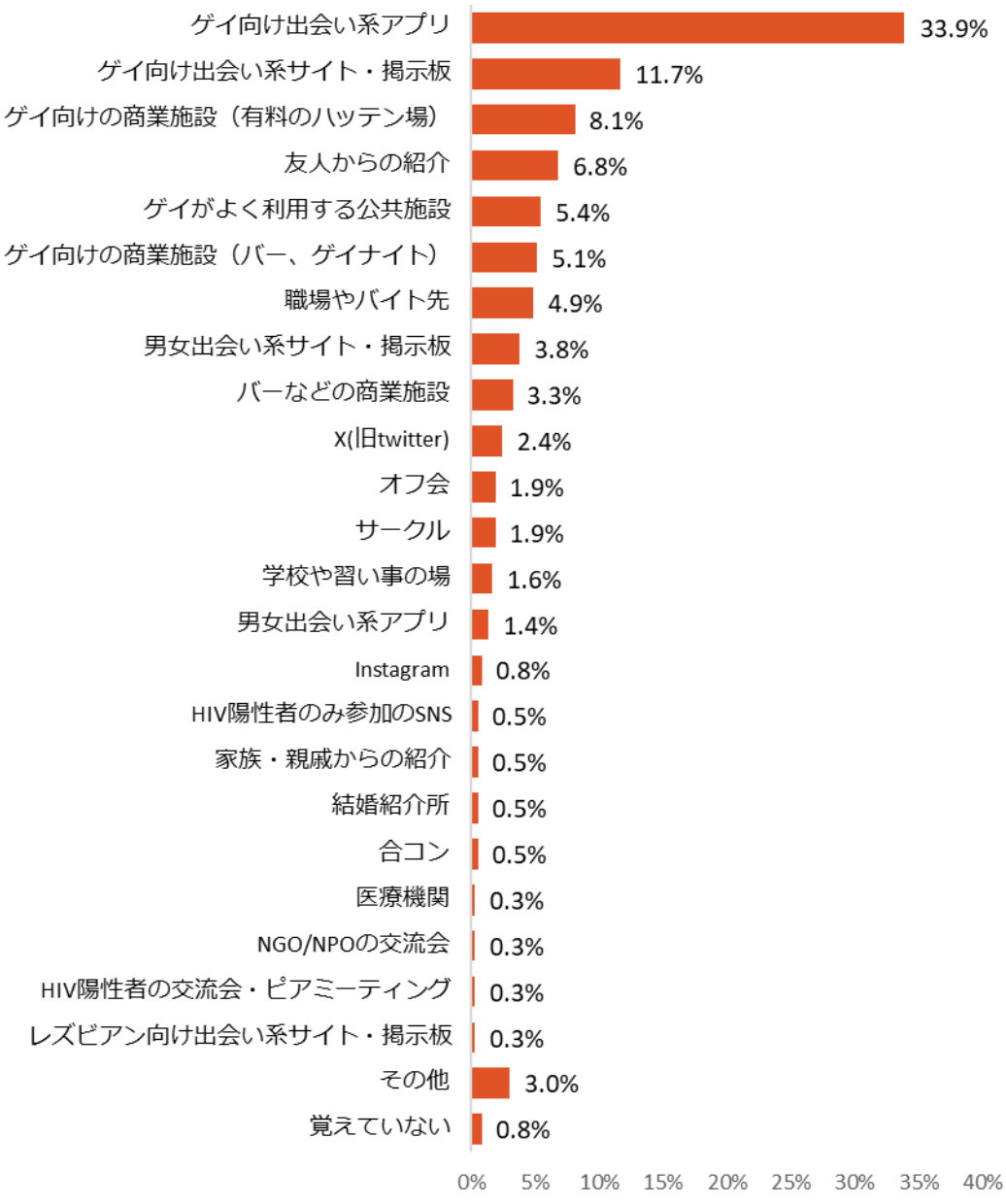
特定の付き合っている人・配偶者や恋人がいる人は 369 人（全体の 45.6%）でした。相手の人数は 1 人が 338 人（91.6%）であり、7.6%は相手が 2～5 人と複数でした（無回答 3 人）。

主な相手の性別が男性であったのは 320 人（現在、特定の付き合っている人・配偶者や恋人がいる 369 人中 86.7%、以下、原則として同様に 369 人中の%）でした。相手の HIV ステータスは陽性 85 人（23.0%）、陰性 228 人（61.8%）、わからない 55 人（14.9%）でした。付き合っている期間の平均は 11.0 年、付き合い始めて 1 年以内が 53 人（14.4%）、10 年以上は 183 人（49.6%）でした。この相手との関係を「今後もずっと続けていきたい」「どちらかというと今後も続けていきたい」が、あわせると 346 人（93.8%）で、第 3 回目の調査結果と比べて、とても高い割合でした。

■主な相手と知り合った場所

最も多かったのはゲイ向け出会い系アプリで 33.9%、次に多かったのはゲイ向けの出会い系サイト・掲示板 11.7%、ゲイ向けの商業施設（有料のハッテン場）8.1%、友人からの紹介 6.8%、ゲイがよく利用する公共施設 5.4%、ゲイバーなどの商業施設 5.1%、職場やバイト先 4.9%、男女の出会い系サイト・掲示板 3.8%、バーなどの商業施設 3.3%でした（図 4-4）。

図 4-4　特定の付き合っている人・配偶者や恋人の主な相手と知り合った場所(n=369)



また、主な相手に HIV 陽性ということを伝えていたのは 281 人（76.2%）でした。伝えてみて「とても良かった」「どちらかといえば良かった」は 246 人（伝えた人のうち、87.5%)、「とても悪かった」「どちらかといえば悪かった」は 9 人(伝えた人のうち、3.2%)、わからないが 25 人（伝えた人のうち、8.9%）でした。

その相手に**伝えた理由**としてもっとも多かったのは「大切なことなので相手に伝える必要があると思ったから」で 70.5%、次に多かったのが「今後、相手に HIV 感染させてしまう可能性があるから」24.9%、「相手に HIV 検査を受けてもらいたかったから」18.9%で、第 3 回と同様の順位でした（表 4-1)。

表 4-1　特定の付き合っている人・配偶者や恋人の主な相手に HIV 陽性ということを伝えた理由（n=281）

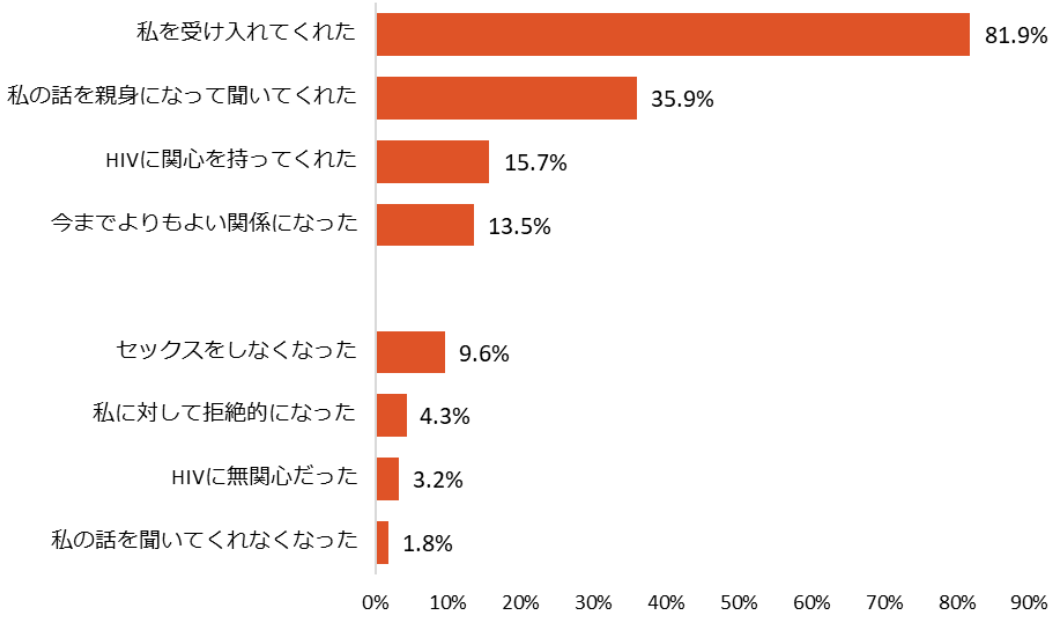
	N	%
大切なことなので相手に伝える必要があると思ったから	198	70.5%
今後、相手にHIV感染させてしまう可能性があるから	70	24.9%
相手にHIV検査を受けてもらいたかったから	53	18.9%
相手がHIV陽性者なので、同じHIV陽性者同士で理解しあえると思ったから	48	17.1%
HIVに対する理解がない相手とは付き合えないと思うから	46	16.4%
体調が悪くなり、伝えざるをえない状況になったから	45	16.0%
HIV陽性者に対する差別や偏見があまりない相手だと思ったから	33	11.7%
HIV陽性であることがわかれば、相手といい関係が築けると思うから	27	9.6%
伝えるタイミング（時間や場所）が見つかったから	27	9.6%
治療を受けウイルス量が低いため、相手にHIV感染させるリスクはないと思うから	22	7.8%
相手からHIV感染したかもしれないと思うから	20	7.1%
孤立していてさびしかったから	11	3.9%
自分への世話や面倒をしてもらいたいから	10	3.6%
その場のノリで	7	2.5%
HIVの薬や身体障害者手帳を見られたり問い詰められたりしたから	4	1.4%
HIVを伝えることで、相手があなたから離れてほしいと思ったから	3	1.1%
その他	18	6.4%
特に理由はない	3	1.1%

相手に伝えるときに**工夫した点**でもっとも多かったのは「HIV 陽性と伝える適切なタイミングを待った」で 27.8%、次に「HIV の薬を飲んでいるところや通院するところを隠さなかった」10.7%、「伝えたい内容や言葉を事前に整理したり、シミュレーションしたりした」10.0%、「医療機関に一緒に行き医師や看護師から説明してもらった」9.3%、「相手の人柄や HIV に関する知識・イメージがどんなものか様子を見て、大丈夫そうだと思って伝えた」8.2%でした。

「特に工夫はしなかった」人も 33.8%いました。

その相手に、HIV 陽性ということを伝えたときの**相手の反応**では、「受け入れてくれた」や「親身になって話を聞いてくれた」など肯定的な反応が多かったですが、「拒絶的になった」など否定的な反応もありました（図 4-5）。

図 4-5　特定の付き合っている人・配偶者や恋人の主な相手に HIV 陽性ということを伝えたときの反応(n=281)



■特定の付き合っている人・配偶者や恋人との性行動

特定の付き合っている人・配偶者や恋人がいる人で、過去 1 年間にセックス経験がある人は 137 人（37.1%）でした。このうち、膣性交や肛門性交などの挿入経験がある人は 85 人（62.0%）でした。さらに、挿入時のコンドーム使用について「必ず使った」と回答した人は 11.7%（挿入経験がある人のうち、18.8%）でした（図 4-8）。

■特定のセックスパートナーとのセックス

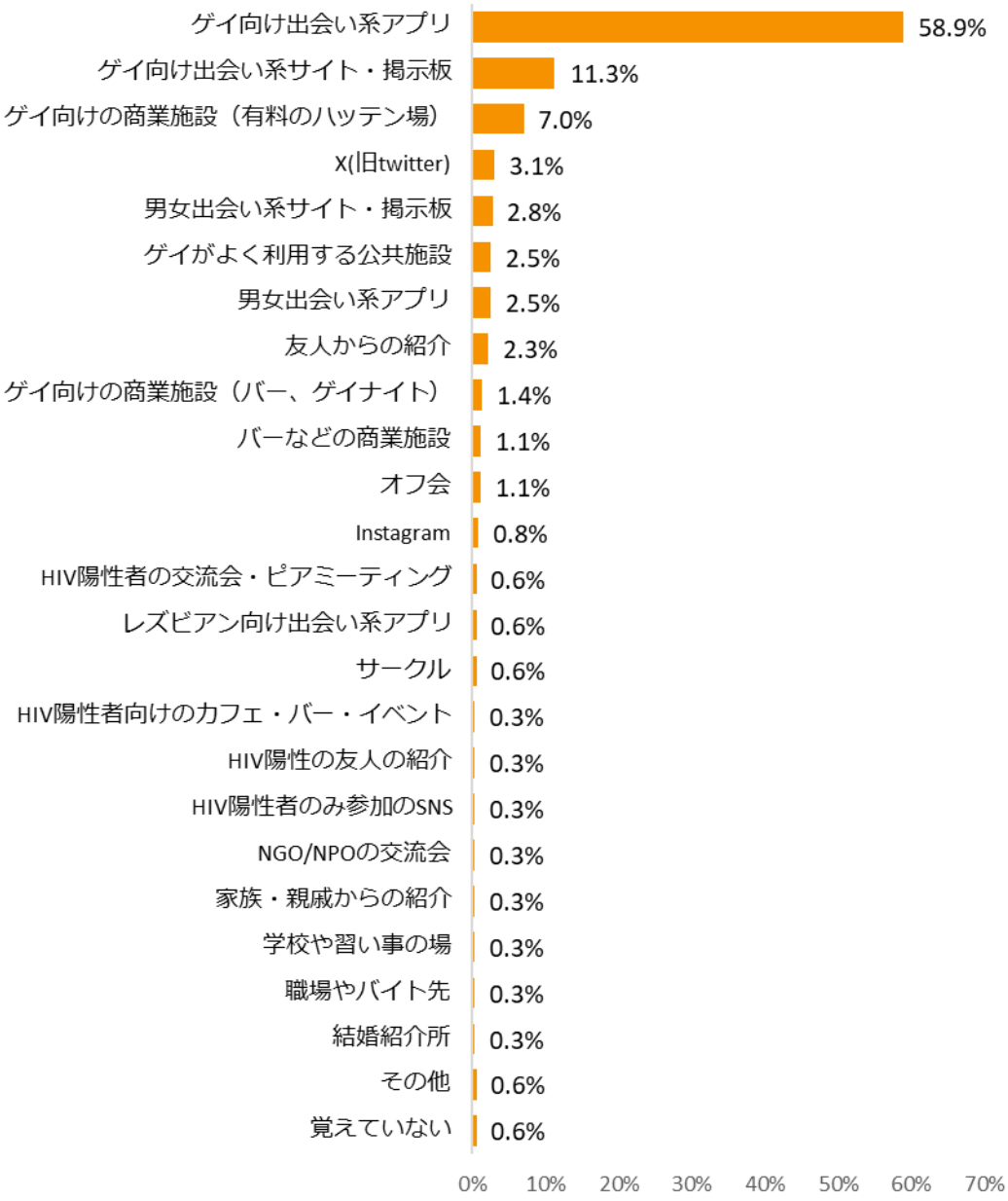
この 1 年間に特定のセックスパートナーとセックスした人は 355 人（全体の 43.8%）でした。相手の人数は 1 人が 69 人（この 1 年間に、特定のセックスパートナーとセックスした 355 人中 19.4%、以下、原則として同様に 355 人中の%）であり、平均で 6.0 人でした。相手の HIV ステータスは「ほぼ全員が HIV 陽性」「一部は HIV 陽性」であった人は 91 人(25.6%)､「相手が HIV 陽性か陰性かまったくわからない」という人は 213 人(60.0%)でした。

主な相手の性別が男性であったのは 348 人（98.0%）でした。相手の HIV ステータスは陽性 49 人（13.8%）、陰性 78 人（22.0%）、わからない 228 人（64.2%）でした。また、関係を持っている期間の平均は 3.0 年、関係を持ち始めて 1 年以内が 152 人（42.8%）、10 年以上は 28 人（7.9%）でした。この相手との関係を「今後もずっと続けていきたい」「どちらかというと今後も続けていきたい」が、あわせると 314 人（88.5%）でした。

■主な相手と知り合った場所

主な相手と知り合った場所として、最も多かったのはゲイ向け出会い系アプリで 58.9%、次に多かったのはゲイ向けの出会い系サイト・掲示板 11.3%、ゲイ向けの商業施設（有料のハッテン場）7.0%、X(旧 twitter)3.1%、男女の出会い系サイト・掲示板 2.8%、ゲイがよく利用する公共施設 2.5%、男女出会い系アプリ 2.5%、友人からの紹介 2.3%でした（図 4-6）。

図 4-6　特定のセックスパートナーの相手と知り合った場所(n=355)



主な相手に HIV 陽性ということを伝えていたのは 91 人（25.6%）でした。伝えてみて「と

ても良かった」「どちらかといえば良かった」という人は 72 人（伝えた人のうち、79.1%）、「とても悪かった」「どちらかといえば悪かった」は 3 人（伝えた人のうち、3.3%）、わからないが 15 人（伝えた人のうち、16.5%）でした。

その相手に**伝えた理由**としてもっとも多かったのは「大切なことなので相手に伝える必要があると思ったから」で 50.5%、次に多かったのが「相手が HIV 陽性者なので、同じ HIV 陽性者同士で理解しあえると思ったから」33.0%、「HIV 陽性であることがわかれば、相手といい関係が築けると思うから」19.8%、「今後、相手に HIV 感染させてしまう可能性があるから」16.5%、「HIV 陽性者に対する差別や偏見があまりない相手だと思ったから」12.1%、「治療を受けウイルス量が低いため、相手に HIV 感染させるリスクはないと思うから」「その場のノリで」がそれぞれ 11.1%でした（表 4-2）。

逆に**伝えなかった理由**では、「治療を受けウイルス量が低いため、相手に HIV 感染させるリスクはないと思うから」が最も多く 64.8%であり、次いで「HIV 陽性であることがわかれば、嫌な印象をもたれると思うから」45.1%、「HIV 陽性であることがわかれば、差別や偏見にさらされると思うから」32.2%、「予防をすれば、相手に感染させるリスクはないと思うから」31.8%でした（表 4-3）。

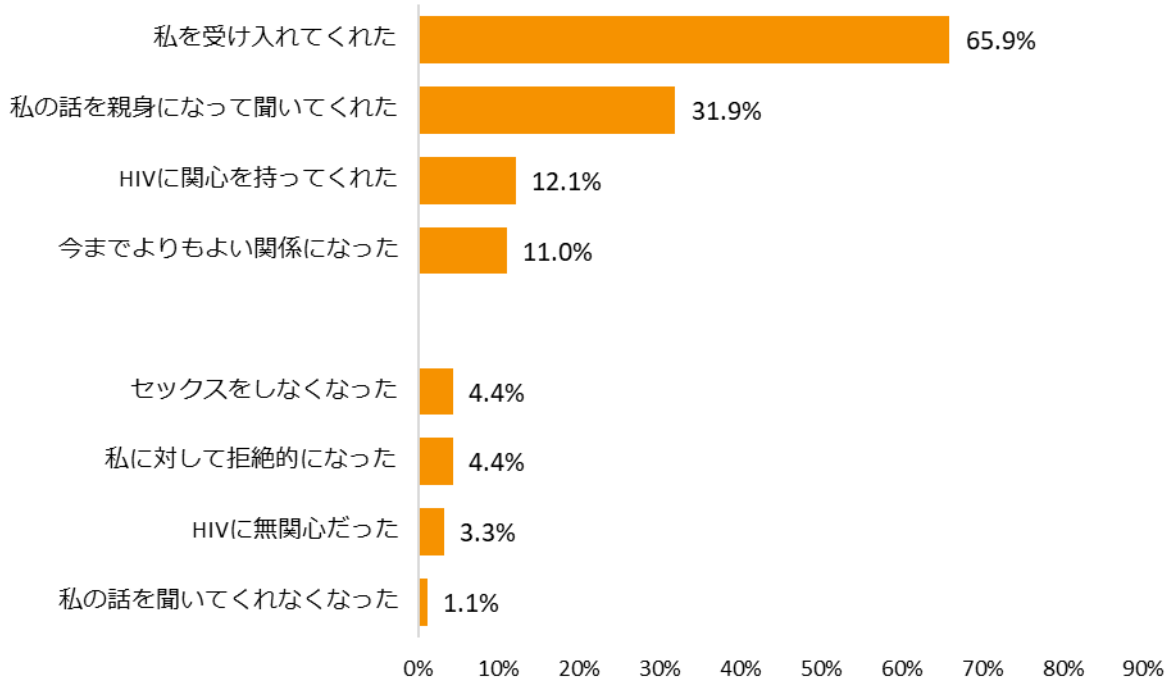
表 4-2　特定のセックスパートナーのうち、主な相手に HIV 陽性ということを伝えた理由（n=91）

	N	%
大切なことなので相手に伝える必要があると思ったから	46	50.5%
今後、相手にHIV感染させてしまう可能性があるから	15	16.5%
相手にHIV検査を受けてもらいたかったから	9	9.9%
相手がHIV陽性者なので、同じHIV陽性者同士で理解しあえると思ったから	30	33.0%
HIVに対する理解がない相手とは付き合えないと思うから	9	9.9%
体調が悪くなり、伝えざるをえない状況になったから	3	3.3%
HIV陽性者に対する差別や偏見があまりない相手だと思ったから	11	12.1%
HIV陽性であることがわかれば、相手といい関係が築けると思うから	18	19.8%
伝えるタイミング（時間や場所）が見つかったから	8	8.8%
治療を受けウイルス量が低いため、相手にHIV感染させるリスクはないと思うから	10	11.0%
相手からHIV感染したかもしれないと思うから	7	7.7%
孤立していてさびしかったから	4	4.4%
自分への世話や面倒をしてもらいたいから	3	3.3%
その場のノリで	10	11.0%
HIVの薬や身体障害者手帳を見られたり問い詰められたりしたから	2	2.2%
HIVを伝えることで、相手があなたから離れてほしいと思ったから	2	2.2%
その他	5	5.5%
特に理由はない	1	1.1%

表 4-3　特定のセックスパートナーのうち、主な相手に HIV 陽性ということを伝えなかった理由（n=264）

	N	%
治療を受けウイルス量が低いため、相手にHIV感染させるリスクはないと思うから	171	64.8%
HIV陽性であることがわかれば、嫌な印象をもたれると思うから	119	45.1%
HIV陽性であることがわかれば、差別や偏見にさらされると思うから	85	32.2%
予防をすれば、相手に感染させるリスクはないと思うから	84	31.8%
そもそも相手に伝える必要性を感じないから	72	27.3%
HIV陽性の人とは付き合えないと言われるかもしれないと思うから	57	21.6%
伝えるタイミング（時間や場所）が見つからなかったから	38	14.4%
伝えるのが面倒だったから	24	9.1%
伝える方法がわからないから	20	7.6%
私がHIV陽性と相手がすでに知っているから	14	5.3%
他の人と浮気をしたことがバレてしまうから	7	2.7%
その他	8	3.0%
特に理由はない	9	3.4%

図 4-7　HIV 陽性ということを特定のセックスパートナーに伝えたときの相手の反応（n=91）



相手に伝えるときに**工夫した点**でもっとも多かったのは「HIV 陽性と伝える適切なタイミングを待った」で 20.9%、次に「HIV やエイズについての話題をさりげなくしてみて反応

を見た」11.0%、「持病があって医療機関に通っていることだけをまず伝えた」8.8%、「相手の人柄や HIV に関する知識・イメージがどんなものか様子を見て、大丈夫そうだと思って伝えた」8.8%、「HIV の薬を飲んでいるところや通院するところを隠さなかった」6.6%でした。

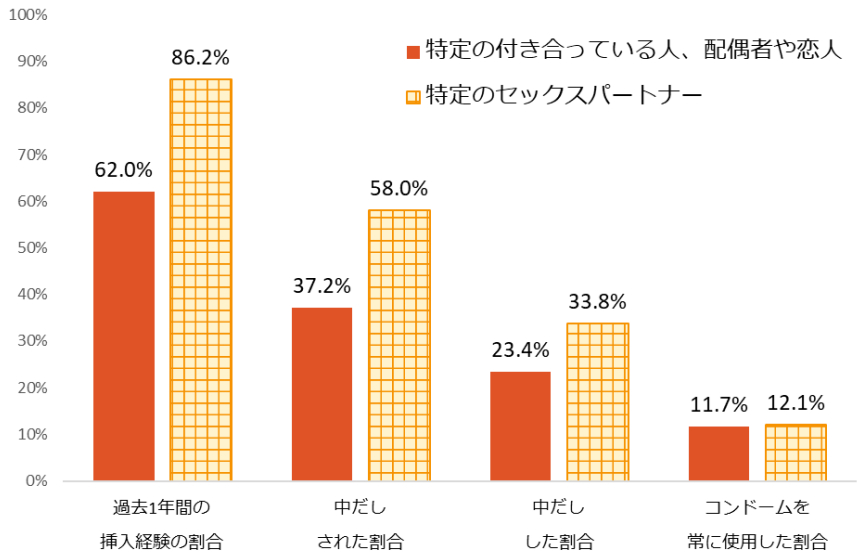
「特に工夫はしなかった」人も 47.3%いました。

その相手に、HIV 陽性ということを伝えたときの**相手の反応**では、「受け入れてくれた」や「親身になって話を聞いてくれた」など肯定的な反応が多かったです（図 4-7）。

■特定のセックスパートナーとの性行動

特定のセックスパートナーがいる人で、過去 1 年間に膣性交や肛門性交などの挿入経験がある人は 306 人（86.2%）で、恋人や配偶者との場合より多い結果でした。挿入時のコンドーム使用について「必ず使った」と回答した人は 12.1%（挿入経験がある人のうち、14.1%）であり、中だし（挿入時にコンドームを使わずに射精）された経験は 58.0%、中だし（挿入時にコンドームを使わずに射精）した経験は 33.8%と、いずれも恋人や配偶者との場合より多い結果でした。

図 4-8　「特定の付き合っている人、配偶者や恋人」（n=137）および「特定のセックスパートナー」（n=355）における性行動



■その場限りの相手とのセックス

その場限りの相手とのセックスがこの 1 年間にあった人は 464 人（全体の 57.3%）でした。相手の人数は 1～2 人が 68 人（この 1 年間に、その場限りの相手とセックスした 464 人中 14.7%、以下、原則として同様に 464 人中の%）であり、平均で 22.2 人でした。相手の性別がすべて男性であったのは 450 人（97.0%）であり、すべて女性であったのは 4 人（0.9%）でした。

このうち、金銭の授受を伴うセックス経験は 65 人（14.0%）であり、相手に払った人が 53 人（11.4%）、受け取った人が 19 人（4.1%）でした。
相手の HIV ステータスは「ほぼ全員が HIV 陽性」「一部は HIV 陽性」であった人は 66 人（14.2%）、「相手が HIV 陽性か陰性かまったくわからない」人は 383 人（82.5%）でした。

相手に陽性であることを「ほぼ全員に」「一部に」伝えた人、あるいは「すでに知っていた」人は 80 人（17.2%）で、「誰にも伝えなかった」人は 384 人（82.8%）でした。

このうち、過去 1 年間に膣性交や肛門性交などの挿入経験がある人は 400 人（86.2%）でした。挿入時のコンドーム使用について「必ず使った」と回答した人は 8.8%（挿入経験がある人のうち、10.3%）であり、中だし（挿入時にコンドームを使わずに射精）された経験は 63.8%、中だし（挿入時にコンドームを使わずに射精）した経験は 44.0%でした。

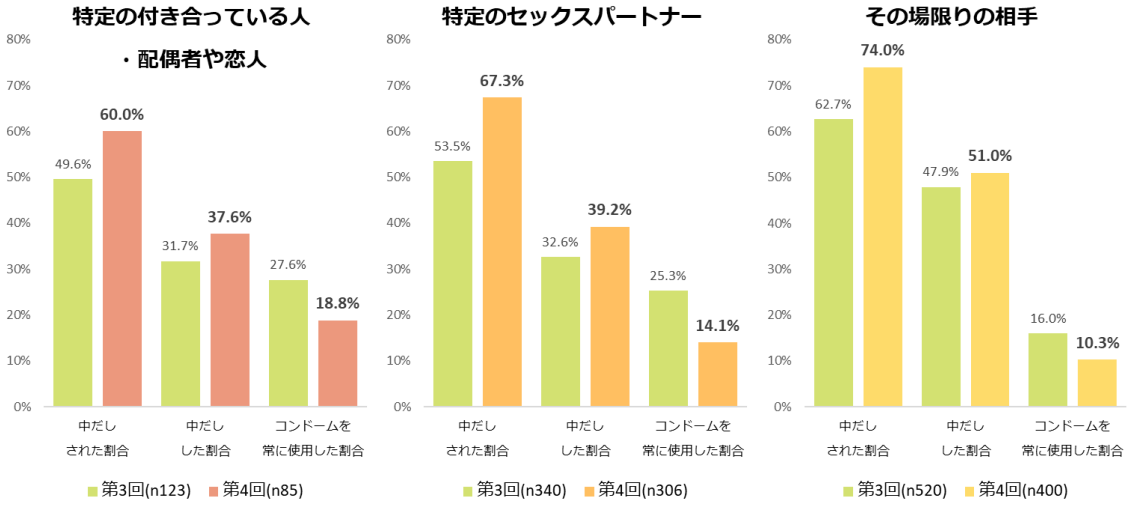
■コンドーム使用率とコンドームを使わずに射精した経験の経年比較

この 1 年間にアナルや膣に挿入したり、挿入されたことがある人を対象に、第 3 回と第 4 回の結果を比較しました。アナルや膣を使ったセックスで、コンドームを使わずに射精した（中だし）経験の割合については、自分が挿入される側では特定の付き合っている人・配偶者や恋人で 49.6%（第 3 回）から 60.0%（第 4 回）に、セックスフレンド等の特定のセックスパートナーで 53.5%（第 3 回）から 67.3%（第 4 回）に、その場限りの相手で 62.7%（第 3 回）から 74.0%（第 4 回）に増加していました。

自分が挿入する側では特定の付き合っている人・配偶者や恋人で 31.7%（第 3 回）から 37.6%（第 4 回）に、セックスフレンド等の特定のセックスパートナーで 32.6%（第 3 回）から 39.2%（第 4 回）に、その場限りの相手で 47.9%（第 3 回）から 51.0%（第 4 回）に増加していました。また、挿入時にコンドームを常に使用した割合は、特定の付き合っている人・配偶者や恋人で 27.6%（第 3 回）から 18.8%（第 4 回）に、セックスフレンド等の特定のセックスパートナーで 25.3%（第 3 回）から 14.1%（第 4 回）に、その場限りの相手で 16.0%（第 3 回）から 10.3%（第 4 回）に減少していました。

第 3 回の調査結果と比べて、コンドーム使用率は低く、中だし経験は高い割合でした。

図 4-9　性行動の相手別　経年比較



■セックスに関連した諸知識：認知と関心

「抗 HIV 薬の服用によりウイルス量が半年以上継続して検出限界値未満を維持することで、HIV を他者に性感染させる可能性は一切ない」ということを知っている人は 746 人（92.1%）でした。また、このことが「U=U（Undetectable=Untransmittable）」と呼ばれていることを知っている人も 731 人（90.2%）でした。

HIV 感染予防のための服薬（PrEP）について伺ったところ、「聞いたことがある」と回答した人は 765 人（94.4%）であり、どういったものなのか、その内容について、「よく知っている」が 197 人（24.3%）、「まあ知っている」が 378 人（46.7%）、「あまり知らない」が 187 人（23.1%）、「まったく知らない」は 47 人（5.8%）でした（図 4-10）。また、HIV 感染予防のための服薬（PrEP）について、「とても興味がある」と回答した人は 144 人（17.8%）、「まあ興味がある」と回答した人は 296 人（36.5%）、「あまり興味はない」と回答した人は 231 人（28.5%）、「まったく興味はない」と回答した人は 134 人（16.5%）でした（図 4-11）。

友達や知り合いの中に HIV 感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP）をしている人については「いる・いると思う」をあわせて 546 人（67.4%）で、現在、セックスしている相手が、実際に、HIV 感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP）をしていると回答した人は 252 人（31.1%）でした。

図 4-10　PrEP に関する知識（N=810）

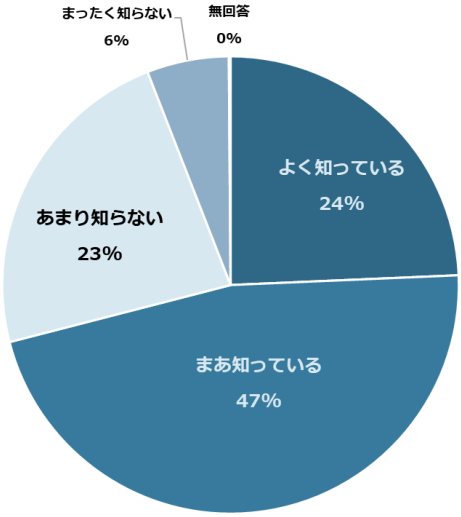
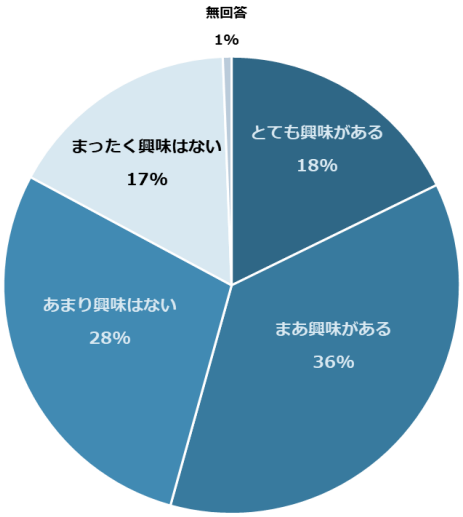


図 4-11　PrEP に対する関心（N=810）



■セックスに関連した諸経験：性感染症の既往

これまでに罹患したことがある性感染症では、第 3 回と比べて増加していたのが梅毒 40.7%、クラミジア 13.6%、淋病 13.5%でした。その他、A 型肝炎 4.8%、B 型肝炎 16.5%、尖圭コンジローマ 16.3%はほぼ同じ割合でした。いずれも罹患したことのない人は 39.1%で、平均して 1.5 種類の性感染症の既往歴があり、3 種類以上の既往がある人は 25.1%でした（図 4-12）。

図 4-12　これまでに性感染症にかかった経験

